



巨大災害リスクの見直しについて (論点整理と意見)

2007年2月22日(木)

共栄火災海上保険株式会社

藤倉 正明

(本内容は、個人的見解に基づくものです)



目次

1. これまでの各委員からの御意見
2. 見直しにあたっての論点整理
3. 具体的意見



1. これまでの各委員からの御意見

- 「地震」と「風水災」の同時反映の可能性
- 再保険カバーのHigh Layerの問題
- 「地震」と「風水災」とのリスク尺度の同一化
- 保有リスクの変化及び商品の多様化に対応したリスク係数の見直し
- リスク合算方法の検討
 - リスク実態モデルが分散効果反映には必要不可欠
 - 短期的には、「地震」と「風水災」との同時顕在化の可能性を考慮
 - 巨大災害リスクとそれ以外のリスクとの分散効果の反映

2. 見直しにあたっての論点整理(その1)

(1) 巨大災害リスクとは

○生保には在り得るか。

- 生保では考慮外として問題が無く、損保固有のリスクと考えられる。

○自然災害以外の巨大災害リスクはどのように考えるべきか。

- 災害の程度として、自然災害以外でも巨大災害の発生する可能性はあり得るが、統計的に確立させることは困難 ⇒ 計量化困難
- むしろ、一般保険リスクの見直し期間の長期化 もしくは個別リスクモデルでの取り入れ等での検討が良いと考える。



2. 見直しにあたっての論点整理(その2)

(2) 現在の算出上の課題と考えられる事項

- 「地震」と「風水災」とのリスク尺度の相違
- 「地震」と「風水災」の同時発生反映の可否
- リスク実態モデルの反映
- 巨大災害リスクとそれ以外のリスクとの分散効果
- リスク係数の見直し
- 再保険カバーのHigh Layerの問題
(以上は御意見から)

- 該当種目区分の見直しの必要性

3. 具体的意見(その1)

(1) 「地震」と「風水災」とのリスク尺度の相違について

- 現在は、「地震」は「風水災」は、それぞれ過去のトップ
ロスを想定しているが、リスク算出尺度が異なる。
- また、「地震」と「風水災」とでは、再現期間も異なる
- 分散効果の観点から、再現期間の統一化も考えられる
が、リスク量としての最大値を追及すべきかと考える。
- 但し、リスクとしての算出尺度の統一化は指向するべ
きかと思われる。



3. 具体的意見(その2)

(2) 「地震」と「風水災」の同時発生反映の可否

- 現在は、「地震」もしくは「風水災」の何れか大きい額をリスクと認識
- 再現期間を統一しない前提では、同時発生反映については、分散効果の中での取り入れていくべきか。

(3) リスク実態モデルの導入

- 分散効果反映の観点からの、各社のリスク実態モデルの導入は長期的課題とすべき。
- 当面は、(1)の「算出尺度の統一化」により、一定各社のリスク実態が反映されるに留まるべき。



3. 具体的意見(その3)

(4) 巨大災害リスクとそれ以外のリスクとの分散効果

- (1)の「算出尺度の統一化」のもとに、分散効果の導入を可能とすべき。

(5) リスク係数の見直し

- 少なくとも直近データでの見直しは必要
- 同時に、リスク係数基準の見直しも必要か
- 各社の個別実態の反映は、どこまで可能か



3. 具体的意見(その4)

(6) 再保険カバーのHigh Layerの問題

- ソルベンシー上のリスクをPMLとして捉える観点からは、High Layerの取得を否定するものでは無いと考えられる。
- むしろ、再保険リスクの問題で検討すべき内容か。

(7) 該当種目区分の見直し

- (5)の「リスク係数の見直し」と関連するが、リスク係数の精緻化と同時に、該当種目区分の見直しを行い、より実態に即したリスク量とすべき。

以上